

ユエと 瑠璃色の石

作 せきゆみ
演出 河野真理子
制作 西川典之

昔々、山あいの小さな国の小さな城にユエという少女が暮しておりました。ユエは周りの大人から“王の娘”としての行いを求められ、それに応え続けようとする日々を送っていました。そんなある日、突然、隣の大国の侵略により、小さな国は脅かされます。不老不死の力を持つ「瑠璃色の石」を手にいれようとする大国の王子ヤンの謀略により、城から出ていくことになるユエ。彼女がたどり着いた先は縁深い谷でした。そこに住む少年ハオと出会い、生命力あふれる谷での生き方を肌で実感していくユエ。そして「瑠璃色の石」の思いがけない正体を知った二人の前に現れたヤン王子。

果たして、二人はヤン王子から平穏な日々を取り戻すことが出来るのか。「瑠璃色の石」の本当の正体とは？ユエとハオが探し出す真実とは？ユエの瞳は何を見つめ、どこへ歩いていくのか。

制作にあたって

「当たり前」という価値観の中で考えることをやめる社会では、子どもたちは自分の意思を表現する機会を失ってしまう。自己表現が失われた時、人間は成長することそのものも失うのではないだろうか。

人間が成長するために本来あるべき環境があったら、子どもたちはどんな生き方を選択するのだろうか。

現代社会ではない、ファンタジーの世界、空想の世界に子どもたちをいざない、子どもたちの想像力を最大限に解放したいと思った。

お城の中で自由を満喫できずにいる少女ユエ。小国の姫は突然現れた侵略者と対峙し、初めて城の外の世界へと向かう運命に。当たり前前に守られてきた籠の中からすべてを自らの手で掴んでいかなければ生きていけない世界へと。

今を生きる、自分を生きる。彼女が感じた世界が彼女の世界を変えていく。

今の子どもたちにも、まわりに合わせる事が目的ではなく、私の幸せ、本当にやりたいことって何だろうと自分自身に問い続ける事を大事にして欲しい。彼女に我々の願いを託し、彼女の変化を、成長を、私たちの織り成す世界で表現してみようと思う。

西川 典之

